

# 自己啓発のための自己評価シート(気づきシート)記入法

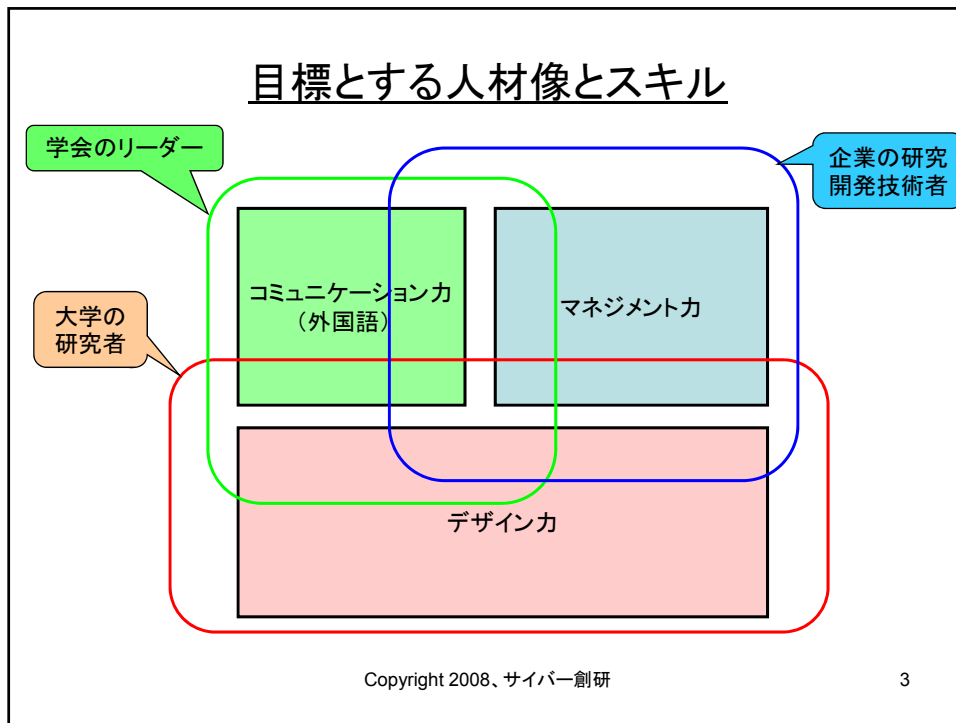
平成20年9月29日  
大阪大学大学院情報科学研究科

## 目標とする人材(GPI)像

(博士後期課程を修了ないし中退した後を想定した短期的目標)

| 人材像     | 活動指標(例)                                  | スキル   |
|---------|--|-------|
| 大学の研究者  | 海外の大学でのAP(Assistant Professor)やポスドクとして活躍 | D、M、C |
|         | 学会等の論文の投稿                                | D     |
|         | レフェリー付学術的国際会議への投稿、採択(プレゼン):2件以上/年        | D、C   |
|         | 学会、国際会議等で論文賞を受賞                          | D     |
| 学会のリーダー | 新しい理論や技術を創出                              | D     |
|         | 学術的国際会議のチェアパーソン(セッションチェアパーソン)として活躍       | M、C   |
| 企業の技術者  | 学術的国際会議での招待講演                            | D、C   |
|         | 国際的研究開発プロジェクトのチームリーダーとして活躍               | M、C   |
|         | 国際的研究開発プロジェクトのプロジェクトマネージャとして活躍           | M、C   |
|         | 新しい技術を開発                                 | D     |

【凡例】 D: デザイン力、M: マネジメント力、C: コミュニケーション力



### スキルの構成要素と施策

| スキル                 | 構成要素                              | 施策   |
|---------------------|-----------------------------------|--|
| デザイン力               | 専門分野の突出した知識、スキル                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案型研究企画支援</li> <li>・Research Assistant (RA)</li> </ul>   |
|                     | 境界・融合分野の知見                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオGCOEとの協働</li> <li>・Work-in-Progress研究会</li> <li>・若手研究者の国際ワークショップ</li> <li>・PRIUS</li> </ul> |
|                     | 高いモラルと意欲                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アドバイザー制度</li> </ul>  |
| マネジメント力             | プロジェクト管理スキル<br>(スケジュール、品質、コストの管理) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案型研究企画支援</li> <li>・Work-in-Progress研究会</li> </ul>   |
|                     | プロジェクト内外のコミュニケーション、ネゴシエーションスキル    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案型研究企画支援</li> <li>・若手研究者の国際ワークショップ</li> <li>・海外インターンシップ</li> </ul>                            |
| コミュニケーション力<br>(外国語) | 実践的語学力                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育</li> <li>・海外渡航助成</li> <li>・海外インターンシップ</li> <li>・PRIUS</li> </ul>                          |
|                     | プレゼンテーションスキル                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者の国際ワークショップ</li> <li>・海外渡航助成</li> </ul>  |

Copyright 2008、サイバー創研 4

## プログラムの評価方法

- 評価すべき観点
  - 人材育成の達成度
  - 3つのスキルの達成度
  - 施策の効果
- 評価方法
  - Plan: 評価尺度とその目標値の設定
  - Do: 施策の実施
  - Check: 目標達成度の評価、改善案(含目標の見直し)の検討  
← 毎年度末に実施
  - Action: 改善案の実施
- 評価者
  - 一般的な評価は、アドバイザー委員会を含む大学関係者で実施
  - 自己啓発のための自己評価シート(気づきシート)分析は、サイバー創研が実施

Copyright 2008、サイバー創研

5

## 気づきシートの形式

自己啓発のための自己評価シート(気づきシート)

| 学籍番号:      | 氏名: | 年月日:           |    |
|------------|-----|----------------|----|
| 施策(課題)名:   |     |                |    |
| スキル        | 種別  | 気づき            | 備考 |
| デザイン力      |     | (自由に自分の気づきを記入) |    |
| マネジメント力    |     | (自由に自分の気づきを記入) |    |
| コミュニケーション力 |     | (自由に自分の気づきを記入) |    |

種別 (1)マインド変革 (2)スキル向上 (3)知識習得 (4)共通

Copyright 2008、サイバー創研

6

## 気づきシートの記載タイミング

### 各施策(課題)の実施時

- ・ 半期毎の学生アドバイザー実施時
- ・ Work-in-Progress研究会実施時
- ・ 成果報告会(学生報告会)実施時
- ・ 若手研究者の国際ワークショップ実施時
- ・ コミュニケーション能力向上セミナー実施時
- ・ 海外インターンシップ実施後
- ・ 国際会議参加後
- ・ 各授業(国際融合科学論等)の実施時
- ・ 研究打合せ、中間報告会 等

### 常に気づきをメモしておく

形式は書式があていれば、何でもよい

- ・ 大学は、Excel形式のものを提供

Copyright 2008、サイバー創研

7

## 気づきシートの記載視点

| スキル        | 記載視点の例                  |
|------------|-------------------------|
| デザイン力      | 専門分野の突出した知識、スキル         |
|            | 境界・融合分野の知見              |
|            | 研究に対する高いモラルと意欲          |
|            | 学会等の学術論文の投稿             |
| マネジメント力    | レフェリー付学術的国際会議への積極的投稿、参加 |
|            | 連携研究の推進                 |
|            | 提案型研究企画の推進              |
| コミュニケーション力 | 会議、ワークショップ等での推進役        |
|            | 英会話能力評価(TOEIC)          |
|            | 国際会議での発表                |
|            | 国際会議等での推進役              |
| コミュニケーション力 | 海外インターンシップ参加            |
|            | 国際ワークショップでの積極的参加(発言等)   |

自分の気づきを自由に書けばよい

Copyright 2008、サイバー創研

8

## 過去の気づきシートの例(FD研修)

| 年月日:     | 06.12.09                   | 所属:                          |                      | 氏名:   |  |
|----------|----------------------------|------------------------------|----------------------|---|--|
| テーマ:     | テスト                        |                              |                      |   |  |
| 特記すべき事項: | 教える内容の一貫性も保つ必要がある。(体系化が必要) |                              |                      |   |  |
| 項番       | 注目項目                       | 学生の関心度[5(高)、4、3、2、1(低)]/自由記述 | 該当するスキルの種類(共通/講義/演習) | 得られた知見/反省事項/コメントなど                                      |  |
| 1        | ソフトウェアの輸出入                 | 3                            | 講義                   | 輸出入の分類まで話すと説得力がある。                                      |  |
| 2        | //                         | 3                            | //                   | 9:00~9:20 □頭のみでの説明は長過ぎる。                                |  |
| 3        | 総合テスト                      | 3                            | 共通                   | CTRC + C を stop と学生が理解できずか? copy と勘違いしないか               |  |
| 4        | 品質保証                       | 3                            | //                   | 図7.7 コンソール曲線, ロジック曲線の例を不<br>す必要がある。図7.8, 図7.9 と対応していない。 |  |
| 5        | //                         | 3                            | //                   | 図7.8, 図7.9 は 学生に漢習として分析させた方が<br>良い                      |  |
| 6        | 品質見解                       | 3                            | //                   | 品質の定義が必要。 図7.11 と p.183の例と<br>が対応していない。                 |  |

自分の気づきを自由  
に書けばよい